

令和5年度 学校評価 自己評価書（後期）

1 学校の重点目標

- 自ら学び、考え、生かすことのできる子供を育てるために、学習指導の改善と確かな学力を定着させることができる。（ICTの効果的な活用、指導法の改善、家庭学習の習慣化、教員の資質向上）
- 思いやりのある心豊かで素直な子供を育てるために、心に届く生徒指導を充実させ、豊かな心を育てることができる。（いじめ・不登校・問題行動等の未然防止、早期発見・チームでの対応）
- 健康でたくましく生きる子供を育てるために、保健・安全指導を徹底するとともに、運動に取り組む中で体力・気力を充実させることができる。（一人一日一運動、感染症予防、食育に関する指導）

2 課題と改善策（A：80%以上達成 B：60～80%達成 C：60%以下）

	評価項目	職員	評価結果と改善方策
重点項目	1 自らの考えを持つ学習指導の徹底	B	・ 授業におけるタブレット活用の日常的な有効活用を図ることができた。今後はタブレットの家庭への持ち帰りを計画的に進めていく。 ・ 読書ビンゴ等読書に親しむ手立てが有効であった。今後も個人差解消の手立てを工夫していきたい。
	2 授業でのタブレットの有効活用	A	
	3 家庭学習（学年×10分+20分）	B	
	4 読書量年間100冊以上	A	
生徒指導	1 全職員一体となった生徒指導態勢の確立	A	・ 毎月1回の情報交換タイム等で情報を共有しながら、全職員で組織的な対応を進めることができた。 ・ いじめアンケートや教育相談で早期対応ができた。 ・ 今後も家庭との連携強化を密に図っていきたい。 ・ SCなど多くの専門家と連携を図り対応できた。解消に向けて今後も組織的に継続して取り組みたい。
	2 いじめ防止基本方針の推進	A	
	3 基本的生活習慣の確立	B	
	4 家庭、地域社会、関係機関・団体等との連携強化・協働	A	
学力向上	1 学びの構え指導の徹底	B	・ 個人差解消のため、個別の指導を徹底を今後も継続していく。学び方の力が発揮できる学習の進め方を今後も工夫していきたい。 ・ PTAの目標を実践・定着させる工夫を継続したい。
	2 基礎・基本の確実な定着	B	
	3 主体的・対話的で深い学びとなる指導法の工夫改善	B	
	4 家庭学習時間の習慣化と見届け	B	
心の教育	1 人権教育の推進	B	・ 指導が必要な子供には保護者と連携を図りながら根気強く関わってきた。学校楽しいーとの有効活用について職員全体で共通理解・共通実践していく。 ・ 「あいさつ先手」については意識を高めていく取組を継続していきたい。
	2 道徳教育の充実	A	
	3 学校楽しいーとの分析・活用	B	
	4 子供と共につくる「花いっぱい運動」「あいさつ先手運動」の推進	B	
体力向上	1 「一人一日一運動」の推進	A	・ なわとび大会に向けて進んで練習する子供の姿が多く見られた。交通安全指導については徹底して行い交通事故防止に努めることができた。 ・ 感染症予防のための取組を全校で実施できた。
	2 チャレンジかごしまへの挑戦	A	
	3 交通安全指導の徹底	A	
	4 保健指導の充実	A	
教育環境	1 一学校一改革「そろえる」の推進	B	・ 靴やトイレのスリッパなど、「そろえる」について今後も継続して取り組んでいきたい。 ・ ISO活動へは委員会等で参加し、活動を深めていた。全校に広げる工夫が必要である。
	2 ISO活動への参加	A	
	3 教室・廊下等の教育環境の充実	A	

3 来年度に向けての取組

- 学力向上に向けては、タブレット等も効果的に活用しながら現在実施している授業改善をさらに継続していく。また、家庭と連携しながら家庭学習の充実を図っていく。
- コミュニティ・スクールとして、地域やPTA、外部団体等との連携を密にし、チーム学校としての取組をさらに充実させていく。